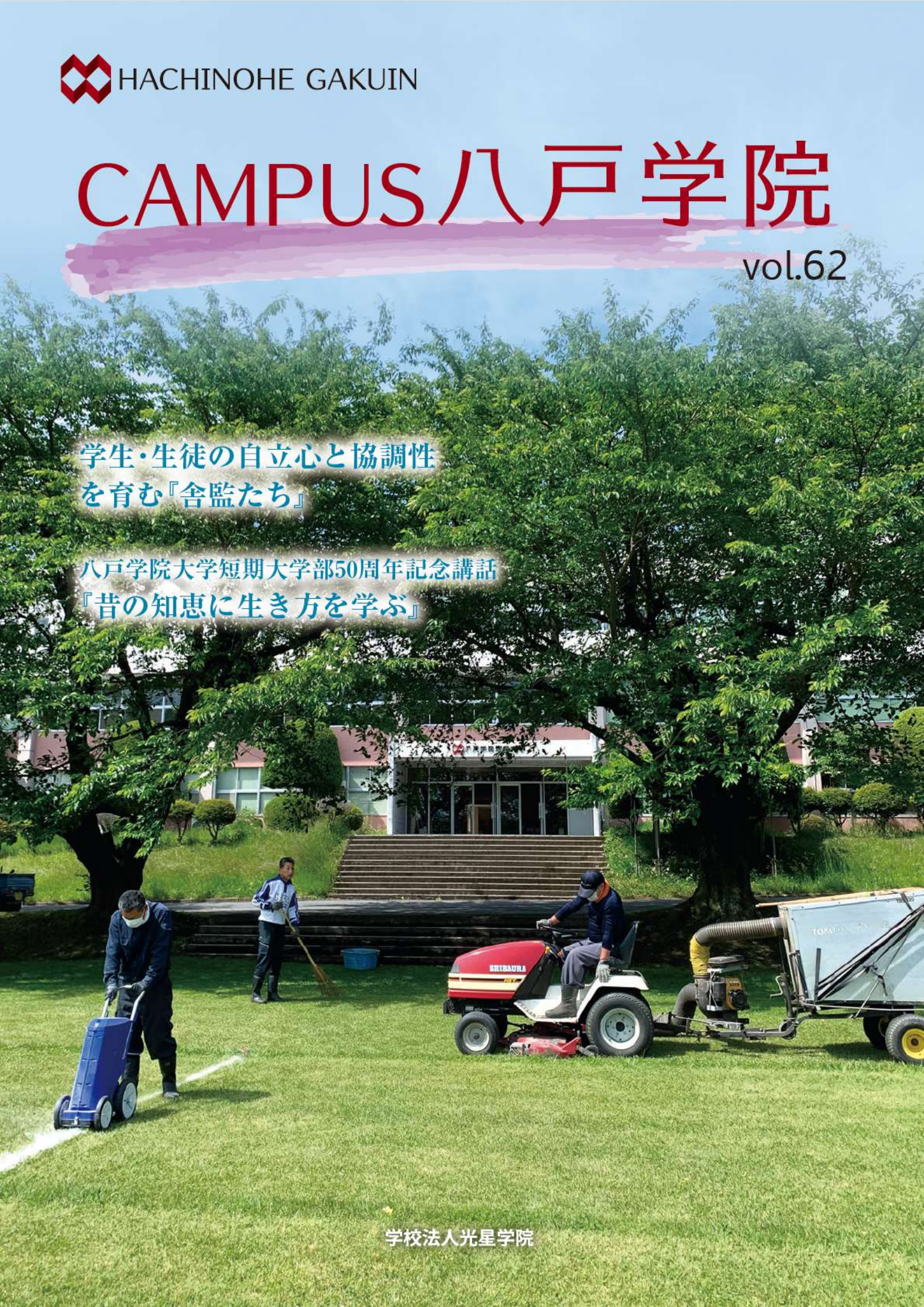
HACHINOHE GAKUIN

CAMPUS八戸学院

vol.62



学生・生徒の自立心と協調性を育む『舎監たち』

八戸学院大学短期大学部50周年記念講話『昔の知恵に生き方を学ぶ』

学校法人光星学院

〈八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部〉

令和４年度 入学式を挙行

令和４年４月６日（水）、美保野キャンパス内にある八戸学院総合体育館において、令和４年度八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部の入学式が挙行された。

八戸学院大学 291 名（地域経営学部地域経営学科 94 名、健康医療学部人間健康学科 124 名、健康医療学部看護学科 73 名）と、八戸学院大学短期大学部 115 名（幼児保育学科 94 名、介護福祉学科 21 名）の新入生が学生としての第一歩を踏み出した。

令和４年度の入学式が挙行された八戸学院総合体育館（美保野キャンパス内）

緊張しながらも笑顔で歓迎のことばを述べた系列３幼稚園の園児たち

コロナ禍のため、保護者はリモート会場で視聴

CONTENTS

3　八戸学院大学・八戸学院短期大学部
令和４年度　入学式を挙行

4　学生・生徒の自立心と協調性を育む『舎監たち』

6　行政機関×高等教育機関　新郷村

8　研究室訪問
私の研究とゼミナールの活動

10　八戸学院光星高等学校
オンライン英会話を授業に導入

11　八戸学院野辺地西高等学校
グローバル教育の展開

12　八戸学院 TOPICS

14　ステラが行く

15　ステラ・フォーカス

16　八戸学院大学短期大学部 50 周年記念講演
『昔の知恵に生き方を学ぶ』

17　同窓生の広場

18　令和４年度　新入生講話（上）

読書のススメ

『オリンピック魂　人間力を高める』

橋本　聖子／共同通信社

東京オリンピック・パラリンピック組織委員会会長として、任務を全うされた橋本聖子先生。本を読むと、どんな大役もやり遂げる姿がイメージできる。

スポーツは心を鍛え、人間力を高め、魂を磨くことを大きな目標としているというフレーズに惹かれた。『スポーツがもたらす地域活性化』と題し、本学関係の講演会講師時、本に書いてもらったサインは今でも宝物。芸道にも本書は通じるものがあると心に刻むため、宛名を【紫風】にしてもらった。一方で、レジェンドを前に「日本舞踊の名取です」ってかっこつけたい自分がいたのかもしれない。

八戸学院大学・短期大学部
学務部 部長
岡沼　真由美

CAMPUS 八戸学院

vol.62

表紙
八戸学院大学短期大学部のグラウンドは、系列幼稚園の運動会でも使用されています。乗用芝刈り機や、ライン引きを使いトラックを整備しているのは、法人の環境整備担当者です。トラック周辺の安全点検を含め、数日かけて作業を行います。

建学の精神
「神を敬し、人を愛する」
カトリックの精神に則る道徳教育を施し、高尚なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成することをもって目的とする。（寄附行為 第３条）

●八戸学院大学
TEL 0178-25-2711
●八戸学院大学短期大学部
TEL 0178-25-4411
●八戸学院地域連携研究センター
TEL 0178-25-2789
●八戸学院図書館
TEL 0178-30-1695
●八戸学院光星高等学校
TEL 0178-33-4151
●八戸学院野辺地西高等学校
TEL 0175-64-4166
●八戸学院幼稚園
TEL 0178-34-5765
●八戸学院聖アンナ幼稚園
TEL 0178-45-3670
●八戸学院第二しののめ幼稚園
TEL 0178-25-2488

https://kosei.hachinohe-u.ac.jp/

学生・生徒の自立心と　協調性を育む『舎監たち』

野辺地西高校「第二えぼし寮」

太田　陸

私は野辺地西高校を卒業後、系列の八戸学院大学に進学。教員免許を取得し、今年度から教員・舎監として勤務しています。舎監の主な仕事は、点呼の確認や清掃の指導、部屋の見回り、食事指導です。この仕事は、普段部活動や学校生活では見ることのできない生徒の意外な一面や、表情などを見ることができます。また、とても大変な仕事ですが、楽しく、やりがいがあります。これからも、コミュニケーションを大切にしながら、生徒の生活に大きく貢献するため、頑張っていきたいと思います。

食事指導で体作りをサポート

野辺地西高校「第一えぼし寮」

石川　伊吹

野辺地西高校（平成22年度卒業）在学中はサッカー部に所属し、寮生活も経験しました。部活では苦手な部分を自分で考えて取り組む姿勢、努力を続けることの大切さを学び、寮生活では親へのありがたみ、生きていく上で大事なことを学びました。今では舎監兼サッカー部コーチとして指導する立場となり、人間性の重要さや感謝する気持ちを持てるかどうかを伝えています。寮生活、サッカーを通じて社会で通用する人材が1人でも多く生まれるように今後も頑張っていきたいと思っています。

寮内でも感染症対策はしっかりと

光星高校「東雲寮」

渋谷　帆香

東雲寮（女子棟）は、光星高校の敷地内に併設されているため、朝練習や自主練習に一生懸命取り組むことができる、とても良い環境です。寮には現在、様々な部活動に所属する生徒が入寮しており、寝食を共にしています。その中で、「自立心」や「協調性」、そして何より社会で求められる「人間力」の成長を大切に、一人ひとりに寄り添いながら、指導をしています。また、寮生企画の歓迎会やお楽しみ会を開催するなど、みんなで楽しく寮生活を送っています。

毎日21時に行っている点呼の様子

光星高校「東雲寮」

中村　健太

東雲寮（男子棟）では、6競技の部活動生が生活しています。寮生のモットーは、他者の刺激を受けつつ集団生活に対して前向きに取り組んでいくことであり、寮生活を通して「自立・自律・気配り・思いやり」と、アスリートにふさわしい生活習慣を身に付けることを目指しています。親元を離れ自分の目標に向かって切磋琢磨している姿から、私自身も刺激を受けています。また、栄養バランスの良い食事を摂取することができ、心身共に充実しています。今後も舎監として寮生の健康と安全を守っていきます。

学校では硬派な生徒も寮では笑顔に

光星高校硬式野球部「青雲寮」

杉﨑　朝朗

光星高校硬式野球部は全国制覇を目標にしています。全国から甲子園で優勝したいという志を持った部員たちと寝食を共にし、夢を追いながら日々寮で暮らしています。個人それぞれに一進一退はありつつも、部員たちが寮生活での学びを通じ、周りの同級生や後輩を思って行動している姿を見たとき、日々成長していることを実感します。そういった成長の瞬間を見られるのが大きな喜びです。これからも部員たちと共に成長していき、みんなで日本一を目指せるのが、日々のやりがいに繋がっています。

生徒173名と一緒に寮生活

大学男子サッカー部「志錬館」

力石　暁

舎監を勤めていて難しいと感じていることは、学生との距離感です。近すぎるとメリハリがつかなくなり、遠すぎるとコミュニケーションが取れなくなってしまいます。そんな中でも、私が学生たちに大切にしてほしいと思っていることは「感謝」をすることです。大学で勉強して、サッカーができ、寮で暮らせるのは、保護者や寮の関係者など、様々な人のおかげです。ただ「感謝」するだけでなく、それをどう表現して伝えるか。今後もこのことを大切にしながら、一緒に成長していきたいと思います。

悩みや相談に親身になって対応

行政機関

× HACHINOHE GAKUIN

高等教育機関

新郷村

村　長　**櫻井　雅洋**

1952年　生まれ
1983年　新郷村役場入庁
2017年　新郷村長（1期）
2021年～現在　新郷村長（2期）

八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部の前身は私の母校、光星学院高等学校（現 八戸学院光星高等学校）であり、半世紀以上を経て、今こうして携われることとなったことに、すごく感動や感慨深いものがあります。同級生40数名が平屋の木造校舎で学び、十勝沖地震を経験し、学校の周辺が畑で、春一番による土埃が、教室の隙間から入り込む環境の中、勉学にスポーツに精進したものの成績や功労などなんのとりえもなく卒業したことが走馬灯のように浮かんできます。現在の景色がみじんも感じられない当時でありました。

新郷村は平成26年3月に、八戸学院大学・八戸学院短期大学（現 八戸学院大学短期大学部）それぞれの保有する情報、ノウハウ等を用いて相互に協力し、地域産業の育成と振興、生涯学習の推進、地域住民の健康増進、スポーツの振興等社会発展に貢献することを基本に連携協力を締結させて頂きました。県南地域においてもまだまだ新郷村の知名度がなく、どのように情報発信すれば村の活性化を図れるのか模索したとき、若い人の感性が最大の効果を生み出します。そして期待することは、八戸学院大学や、短期大学部で学んでいる各学科の専門分野の生徒の知識・アイデアであると、思っております。

新郷村は①農林畜産業の振興を第一に、各種支援や補助を実施し、良質農産物生産、ブランド化を目指す商品の開発、農家の所得向上、②湯治場として賑わった「わしの湯」温泉を再建して健康福祉対策や高齢者によるキノコ栽培での生きがいの場づくり推進、③村民憲章の具現化を目指し、心豊かな子どもを学校・家庭・地域で育む教育の推進、④少子化対策の一環として子育て環境を整備し、若者定住促進住宅や、空家等対策促進、⑤観光資源や間木ノ平グリーンパークを前面に発信し観光客誘致など積極的に取り組んでおります。

昨年もコロナ禍により村民が不安な日々を過ごし、地域経済の落ち込みもありました。その対策として地域振興券の発給、農家支援、ワクチン接種、観光施設改修による経済の回復に取り組みました。

昨年、リニューアルしたバスケットコート、テニスコートのオープニングセレモニーに、県内でもトップ選手を擁する八戸学院光星高校のバスケットボール部、ソフトテニス部にお願いしたところ、快くお引け受け頂き、小中学校の児童生徒に直接指導や、練習方法の指導をして頂きました。これも連携協力があってのことと感謝しております。また、東京藝術大学の学生による、間木ノ平グリーンパーク管理棟に壁画を制作して頂くなど、感性をもった若い力を借りながら、複数回訪れたくなるような、施設になるよう整備を進めております。

当村は高齢化が進行しております。福祉・介護の業務は今以上に取り組んでいかなければならないと考えています。介護や福祉分野では資格取得が必須であり、介護福祉学科が開設されたことから、卒業後の国家資格を目指して頂き、当村で就労されるよう学校側に要望活動を展開していきたいと思っております。そのためには当村での支援や奨学制度を見直しして、連携協定を密にしていきたいと思っております。高校・大学の卒業生は当村で多数活躍しており、私もその一人であります。

八戸学院大学・短期大学部の投稿で村の魅力を紹介し、大学と連携協力することで更なる情報発信できればと思っております。

まずその一つとして「神秘とロマンの村」を紹介しなければなりません。村の〝代名詞〟とも言える「キリストの墓伝説」のはじまりは、昭和10年までさかのぼります。茨城県磯原町にある皇祖皇大神宮で発見された古文書をもとに竹内巨磨氏が数名の古代史研究家と当時の戸来村を訪れ、小高い竹やぶにある土饅頭の1つをキリストの墓「十来塚」、もう1つを弟イスキリの墓「十代墓」であると言ったことがきっかけでした。何もないところに突如湧いて出たことから「キリスト湧説」とでも言ったほうが良いのかもしれません。古来、村には、子どもが生まれ初めて外に出すとき額に墨で十字を切ることや、父親をアヤまたはダダと呼ぶことなど、キリストに所縁のあるような風習や習慣が多く残されています。また「戸来村の語源はヘブライが訛ったもの」「ナニャドヤラの盆歌はヘブライ語でキリストを称える歌詞の訛ったもの」「子孫と言われている沢口家の先祖に、目が青く、西洋人の容姿を持つ者がいた」など、この地とキリスト伝説を結ぶ数々のエピソードとともに、多くのメディアで取り上げられ世間に知られるようになりました。その他「大石神ピラミッド」「長慶天皇の墓」「ストーンサークル」などの観光資源を情報発信し観光客を呼び込んでおります。

コロナ禍のあおりを受け、間木ノ平グリーンパークでコロナ感染を気にすることなくオートキャンプ利用者が膨大し、冬キャンプの利用者も増えております。今後は多くの人たちに楽しんでもらえるようイベントを企画したいと考えています。八戸学院大学・短期大学部に看護学科や幼児保育学科、介護福祉学科が開設されております。学生の能力を当村で発揮できるような連携協力を目指し、大学と村が更なる繁栄と活躍に繋げられるよう取り組んでまいりますのでさらなるご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【村活性化製品】

人気商品のソーセージとワイルドベーコン

【ふるさとまつり】

村婦人会による鍋販売の様子

【テニスコート・バスケットコート
オープニングセレモニー】

八戸学院光星高校の生徒による指導

【キリスト祭　ナニャドヤラ】

村ナニャドヤラ芸能保存会による奉納舞

【間木ノ平グリーンパークオートキャンプ場】

星空が美しい冬キャンプの様子

私の研究とゼミナールの活動

八戸学院大学
地域経営学部　地域経営学科
准教授
加来　聡伸

東京農業大学院 生産産業学研究科生物産業学専攻修了
2012年９月から八戸大学総合研究所（現八戸学院地域連携研究センター）に勤務
2013年４月から八戸大学（現八戸学院大学）に勤務

研究テーマ　森林認証制度と地域林業の活性化
担当科目　農業経済学、日本経済論、農業経営学、食料経済学 他

1．地域に視座をおいて研究を行う意義

近年、地域活性化や地方創生という言葉は、一般化され、小学生の高学年にもなれば一度は耳にしたことがあると思います。多くの人は、地域が衰退することに対し、危機感を抱き、地域が活性化することに異論はないと思います。しかしながら、地域経済の開発は、今に始まったことではなく、長らく関連する政策は続けられてきましたが、その多くは失敗と言わざるを得ないものでした。

現在の日本の地域開発の政策が国土開発に則って行われてきた経緯からみれば、初めて行われたのは、１９４０年の戦時下の近衛新体制時になります。いわゆる国家総動員資源管理政策の一環として、軍事力に関する資本の領域的拡大を図ることを目的に行われました。また、その後の国土開発は、１９５０年の国土総合開発法に引き継がれ、国主導の体制が続けられました。また、１９６２年には池田内閣による「全国総合開発計画」が打ちだされ今日の地域経済の問題と深く係る国土開発が行われるようになりました。具体的には、「新産業都市建設」と称した開発が行われ、地方都市を「小銀座」「小東京」化していくような東京の支店を開発するようなものでした。つまり、地方都市を産業活動の場、消費活動の場と捉えた開発で、個の地域の生活や文化は失われ、どの地域でも同じお店や商品が見られるようになりました。

同時に、企業の誘致活動も積極的に行われ、各種インフラの整備に始まり、補助金を交付するための法整備等、あらゆる面で優遇するように誘致合戦が行われました。その結果、見事誘致に成功した地域では、公害や汚染などの環境問題へと発展し、その対策として新たに税負担を強いるようになり、また、誘致に失敗した地域では、借金だけが多く残るようになりました。さらに、企業誘致は、それほど経済効果を生まないことも指摘されています。特に１９８０年代では、「技術先端化型業種」企業を誘致する動きがありましたが、先端技術は技術の漏洩を防ぐことから、労働力、原材料等、地域との産業連関は非常に弱いものでした（岡田智弘（２０２０）『地域づくりの経済学入門 増補改訂版』）。このように、国主導ないしは外からの開発を続けてきた地域開発は、東京に資本が一極集中する構造を築き、地方は衰退の一途からなかなか抜けだせない状況が続いています。

紙幅の関係から、これ以上詳しく説明することはできないのですが、一貫して地域開発政策に対し見られる視点は、①トップダウンによる体制を前提にしていること、②「地方創生」においても今日の国際時代に多国籍企業から選ばれる〝企業誘致〟を推進していること、③さらには、地域住民の生活や文化の視点が欠けていること、が見られます。それゆえに、外からの開発から脱却しなければ、同じように地域政策は失敗する可能性があるのです。

故 戸村春樹先生の作品を表紙に使用した書籍

2．「地域」と「地方」

そもそも地域の活性化策に対して、第２次安倍政権では、「地方」という言葉を使っております。「地方」という言葉は、「中央」という言葉の対語であり、あくまで首都東京にある「中央政府」＝国の視点から、日本列島上に存在している、それ以外の空間や自治体を指しており、そこには主従関係が見られる表現なのです。首都以外の空間や自治体が真の意味で自立を図っていくならば、「地域」という表現の方が適切です。

とはいえ、「地域」という言葉も研究分野によってさまざまな観点から議論されており、こちらを説明するのは私の未熟な力量もあって一苦労です。私の関心は、「地域住民が主体性を発揮して、内発的に発展を遂げることが地域の自立へとつながるか」が、一つのテーマですので、ひとまず、政治経済の視点から玉野井芳郎氏の考えに依拠して地域を捉えています。玉野井氏は「多様な個性を持つ、自然と人間、人間と人間の共生する地域共同体」『〝基層となる世帯→地域共同体（コミュニティー）→地域社会→中央の近代社会〟という多重的、立体的構造を形成している空間」（玉野井芳郎（１９９０）『玉野井芳郎著作集第３巻―地域主義からの出発』）として捉え、「自然と人間」を出発する点に〝地域の個性〟を見いだしております。例えば、東北と裏日本とされる新潟等は、豪雪を抜きに文化を語れないように、自然の条件に合わせた生活や文化が形成されています。この点に、昨今の持続可能な社会の実現や「脱成長」論が想起している「地域」が関係しており、住民の主体性が見られる共同体の在り方に関する研究はより一層関心が高まっています。

3．研究およびゼミナールの活動

このような観点から、私の研究は、八戸地域を対象に行っております。八戸学院大学へ赴任してから改めて地域経済等を学ぼうとしたこともあり、牛歩のごとく研究が進んでいないことは猛省の日々ですが、八戸地域では、中央大学経済研究所（１９８７）『地方中核都市の産業活性化（八戸）』以降、産業の構造分析および部門ごとのミクロ的視点による調査分析が行われていないこともあって、近年の当該地域の状況を知ることに興味を持ちました。また、いろいろ調べていくと、自然資源に裏付けられた特有な文化や流通構造が形成されていること、中央の影響を受けざる得ない地方であるという理由からも面白い研究対象地域だと感じています。

私個人の成果は未だ纏められておりませんが、ひとまず八戸地域の研究の活性の呼び水になることを願い、八戸学院大学の教員、他大学教員および地域の専門家のご協力のもと、各専門分野の視点から八戸の産業を分析しました。内容は、木鎌耕一郎／加来聡伸編（２０２０）『地域の基層と表層―八戸地域から考える―』としてまとめ、「平成31年度学校法人光星学院のイノベーションプログラム（基金）」の助成を頂き、出版させて頂きました。昨今の出版情勢が厳しい折に、本法人のご協力を頂けましたことを改めて感謝致しますとともに、少しでも研究を通じた地域貢献を果たせるよう精進していきたいです。

また、このような考えをゼミナールでも共有し、将来のパートナーとなるような教育活動も目指しております。つまり、地域自治の主体となるような人材が増えることで、地域共同体が形成され、内発的な発展へと繋がり、地域の産業連関が高まることを望んでいます。

具体的には、地域経済の他、農業経済学、食料経済学などの分野を学びつつ、「食資源を活かした地域づくり」をテーマに実際の現場で学ばせて頂いております。２０２０年では、「八食センター40周年事業」に参加させて頂き、八食センターの地元食材40品目の選定及びＰＲ活動を実施した他、地元食材で構成されたお弁当の商品化を地元企業の方々のご協力のもと作成しました。また、２０２１年度は、食品ロスの問題を取り上げ、八食センター、八戸中央青果、リンゴ農家など小売り、外食、流通、生産の現場での食品ロスについて調査し、その成果をＳＤＧｓフォーラムにて報告しました。その甲斐もあってか、今年度は、八戸市役所と共に農産物生産における食品ロスの対応を考えるプロジェクトを行う予定です。このような活動を通じ、少しでも地域に関心を向ける人が増え、大きな動きとなっていくことを今後も目指していきたいです。

40品の商品をPRしたパンフレットの一部

八戸学院光星高等学校

オンライン英会話を授業に導入

普通科進学コースは、2年次から将来の進路希望に合わせた系統を、四つの中から選択できる。その中で今年度から「国際教養系」が新たに立ち上がり10名でスタートしている。コロナ前には修学旅行のコースとしてフィリピンの「CNE1」に短期留学をしたこともあったが、コロナ禍で数年止まっている状況である。

しかし、本校ではこのような状況下でも国際教養系では、水曜日の3・4校時の国際理解の授業で、フィリピンの「CNE1」とオンラインで、マンツーマンでの英会話授業レッスンを行っている。

パソコンを前に、ヘッドセットオン。画面上の動物に扮した各々のアイコンが仮想教室をノック。入室すると、個性豊かなティーチャーが満面の笑みで登場し、「ハロー」と挨拶を交わした後は、専用のテキストを開きパーソナルレッスンが行われる。

言葉を考え恐る恐る話す生徒や突然盛り上がり笑い出す生徒、とにかく知り得る限りの英語をフル活用する生徒など、非常に様々な表情がかいま見える。そして、誰もがパソコンの画面とテキストを凝視し、質問に答えたり発音したりと、それ以外には一切目が行かないほど集中していることから、今後の成長が楽しみである。

2時間のパーソナル授業が終わりティーチャーに別れを告げヘッドセットを取り、「楽しかったー」との第一声を上げる。

年間を通じてこのレッスンを続けたら凄いことになるのではないかと毎回実感する。

実は、本校の「イングリッシュクラブ」の4名が昨年度週1回先行してレッスンを受けている。新聞紙上でも取り上げられた本校初の英検1級合格者のジョン・レゲーロ・ベロニア君もこのレッスンを受けていたのである。

受験対策としての英語に留まらず、実際の日常生活においても活用できるコミュニケーション英語を身に付けさせたいという国際教養系の特長を再確認した。

八戸学院野辺地西高等学校

グローバル教育の展開

フィリピンの語学学校「CNE1」とインターネットでつなぎ、生徒一人に対し教師一人のマンツーマン指導を行っている。会話は全て英語で、実践的な英会話を学ぶことができる貴重な機会となっている。

1年生の時から受講している3年生の澤田煌希君は、「今年も受講したいと思っています。オンラインレッスンで英語を学んだことで、英語力が上がったと実感しています。チャンスがあれば語学留学をしたいとも考えています。先生方が丁寧に教えてくれるので、英語の授業も楽しく学べるようになり英語が好きになりました。」と今年の講座開講を心待ちにしている。

世界に向かって羽ばたくための本校のグローバル教育も確実に浸透し、今後益々生徒の活躍が期待されている。

八戸学院光星高等学校
大学で海外事情を学ぶ

光星高校の生徒が高大連携事業の一環として、八戸学院大学の講義を受講しています。今年度は、ITビジネスコースと国際交流コースの生徒31名が海外事情（中国文化・韓国文化）を受講しており、この他にも海外について学ぶプログラムが予定されています。

大　学　看護師国家試験　初の全員合格

八戸学院大学看護学科を今春に卒業した61名全員が、看護師国家試験に合格しました。同試験の全員合格は初めて。このうち８名が保健師国家試験も受験し、全員合格（２年連続）を果たしました。

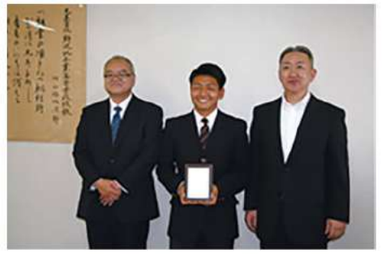
国家試験合格に向けて、３年次から対策講座を開講するなど準備を進めてきました。しかし、１月に新型コロナウイルスにより学内の施設が閉鎖となり、オンラインによる補講やＳＮＳ等を活用するなど「みんなで合格」を合言葉に苦難を乗り越え、努力が実りました。

４月から八戸市立市民病院に勤務している市澤さん(中央)と高橋学科長(左)、木村准教授(右)

野西高　令和4年度高校総体スローガン優秀賞受賞！

下川原 堅藏 高体連会長が本校を訪れ、令和４年度第75回青森県高等学校総合体育大会優秀賞に輝いたスローガン「集大成 歴史を変える その瞬間」の３年１組 西野 春徹君（七戸中出身）に楯が授与されました。

表彰式後下川原会長は「素晴らしいスローガンを寄せてくれてありがとうございます。サッカー部に所属しているとのことですが、部活動を通して立派な人間に成長するよう頑張ってください。」とお祝いを述べられました。西野君は、「選ばれるとは思っていなかったので、とてもうれしいです。『歴史を変える』この言葉はサッカー部のモットーで、どの選手にも当てはまると思って入れました。スローガンに恥じず、悔いのないよう最後の高総体も頑張ります。」と受賞の喜びを語りました。



左から　橋場校長、西野君、下川原高体連会長

野西高　“命を守る”二つの教室開催

薬物乱用防止教室（4/18）では、講師の生活安全係巡査長 滝沢圭介氏は「薬物には最初から手を出さないことが大原則」であり、『かかわらない、はっきりと断る、話題を変える』等の断る手立てを話してくださり、「絶対に手を出さないでください」と繰り返し生徒に訴えかけました。

また、交通安全教室（4/19）では、「守っていますか、自転車のマナー」と題して交通課長の吉葉里香さんから講話をいただきました。『人は、一つのことに注意を引かれると視野が狭くなり様々な危険を見落としてしまったり、意識が散漫になったりしてしまう』ことをユーモアを交えてお話ししてくださいました。また、自転車事故の被害者遺族の手紙を読み上げ、自転車に乗ってのスマートフォンの使用の危険性についてはＤＶＤを映し、注意喚起を促しました。

どちらの教室においても、自分だけでなく、家族・友人まで不幸にしてしまうということを生徒に訴えかけていました。

光星高　階上岳の頂上に立って [4/25]

本校普通科スポーツ科学コースの２・３年次で、野外実習を実施し、約90名が階上岳の頂上を目指しました。出発前の生徒たちの反応は、しんどい･疲れるという意見と、みんなで登ることに対する期待の半々だったように思います。いざ始まると、教員も生徒も声を掛け合い全員で協力して頂上までたどり着くことができました。苦労した分、頂上での集合写真は最高の笑顔でした。学年を越えてコースの縦と横のつながりがさらに深まり、一致団結することができたと思います。これからも、文武両面でのそれぞれの頂点を目指し、素晴らしい景色が見られるような１年になることを期待しています。

光星高　本校初　英検１級合格！

2021年度第３回英語検定において、特別進学コース３年のジョン・レゲーロ・ペロニア君が、最難関の１級に合格しました。本校史上初の快挙です。英検１級は大学上級者レベルとされ、政治や経済などの知識も求められます。将来は国際線のパイロットになることが目標です。そのために質の高い学びを追究する彼は、豊かな言語力が必ずや仕事に活きると踏んで１級受検を決めました。生まれ故郷のフィリピンで幼少期より英語に慣れ親しんだ素地とやる気を元に、好きなアニメや漫画を英語版で見るなど、楽しみながら学ぶよう工夫し、試験前１か月はALTのエティエン先生とマンツーマンで作文や過去問に取り組みました。英検合格で得た自信を糧に、今後は日本語の学習を中心とした大学受験対策に打ち込みたいと抱負を語っていました。

光星高　弓道部女子が団体優勝！

５月８日に青森県武道館近的弓道場で行われた「青森県下高等学校弓道大会」の女子の部で本校が20年ぶり２度めの団体優勝を果たしました。

八戸学院幼稚園
幼稚園の教育計画について
～「10の姿」との関連から～

本園の教育目標は「明るく元気な子」「心の豊かな子」「自分の考えをもてる子」の3点ですが、それらを「健やかな心と体」「豊かな感性と表現」「物事に主体的に取り組む態度」と読み替え、その達成のための教育活動として、健康、アート、遊びの3つを柱に据えました。

「健やかな心と体」は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の第一に上げられている「健康な心と体」と重なります。そのために大切なのが適切な生活習慣の形成、運動遊び、食育、安全教育などですが、特に力を注ぎたいのが外遊びです。園庭だけでなく、隣接する八戸学院光星高等学校や美保野キャンパスや地域の自然を活用し、光と風を感じながら、思い切り体を動かす楽しさを味わってもらいたいと思っています。また、安全教育の一部として今年度は性教育を取り入れる予定です。これは自分の体と尊厳を守り、自他を愛する心を育もうとするもので、その先にはいのちの教育があります。幼児期のいのちの教育としては、動植物を育てたり絵本を読んだりすることが中心ですが、それに加えて地域の高齢者との交流なども積極的に取り入れたいと考えています。これらは10の姿の「自然との関わり・生命尊重」「社会生活との関わり」につながるものと言えます。また、すべての子どもが明るく元気に生活できるようにするために、特別支援もここに含めました。

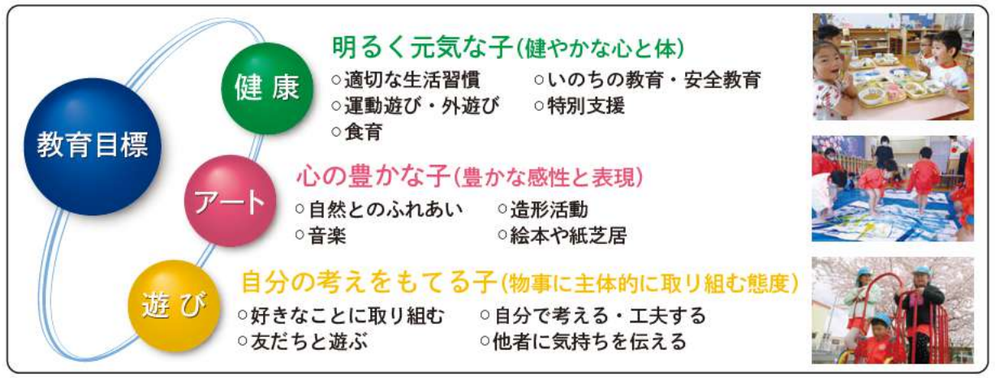
体験学習

「豊かな感性と表現」は10の姿の「豊かな感性と表現」「言葉による伝え合い」をカバーするもので、それを育てるのは日々の教育活動そのものです。子どものみずみずしい感性と表現する喜びを育むために、保育者自身が自分の感性と表現を磨き、たくさんの「美しいもの」との出会いを子どもに提供していきたいと思います。

3つ目の「物事に主体的に取り組む態度」については、E. H. エリクソンによる幼児期の発達課題〝主体性・積極性〟と、学ぶ力の土台となる非認知能力を意識しています。非認知能力は非常に幅広い概念であり、10の姿にある「自立心」「協同性」「道徳心・規範意識」もそこに含めることができますが、それらが育つ前提として、子どもが好きな遊びに夢中で取り組む経験が必要だと考えるからです。主体的に取り組むからこそ、うまくいかなくても諦めずに頑張ったり、友だちに気持ちを伝えたり、協力してやり遂げたりし、そこから自分を信じる力が育ちます。10の姿には「思考力」「数量や文字への関心」もありますが、それもこうした遊びの経験の中で育てる工夫が必要だと思います。

保育は子どもが育つ環境～時間と空間～をデザインする仕事、総合芸術とも言われます。それが一人でできることでないのは言うまでもありません。幼稚園全体の質を高めるために、研修などを通して個々の職員が力を高めることはもちろん、職場のコミュニケーションや働きやすさを大切にし、また、大学・短大・高校の教育資源を積極的に活用していきたいと思います。

（園長　杉山 幸子）



ステラ・フォーカス

八戸学院幼稚園
笑顔の入園式

4月10日の入園式において、サプライズで短大生によるハンドベル演奏がありました。演奏したのは幼児保育学科中嶋ゼミの8名です。中嶋ゼミはイングリッシュ・ハンドベルを研究テーマに、はっちやラピアなど様々な場所で演奏活動を行っており、今回はお祝いの気持ちを込めて「さくらさくら」と「虹の彼方に」の2曲をプレゼントしてくれました。

ハンドベルは天使の歌声とも言われています。入園式には乳児から年長までの43人の子どもと保護者が参加していましたが、それまでちょっと飽きていた子どもも、演奏が始まるとじっと聴き入っていたのが印象的でした。中には音に合わせて（？）手で椅子を叩いている子も…

これからも子どもたちにたくさんの「美しいもの」に触れる機会を提供したいと思います。

八戸学院聖アンナ幼稚園
命を大切にする日

東日本大震災から11年。聖アンナ幼稚園では毎年3月11日を「命を大切にする日」として、私たちが暮らしているこの場所で起きた大きな震災について子どもたちに語り継いでいます。「じしん」「つなみ」「ていでん」などの言葉がお話の中に出てくると経験していないはずの子どもたちが急に「し～ん」となり真剣な表情で話に耳を傾けていました。奪われてしまった命があった事、生きるためにとった行動など子どもなりに感じ取った様子で、自分の命、人の命について考える機会になったように思います。最近では「戦争」という言葉を耳にする機会もあり、子どもたちの口から聞かれることもあります。命について考える機会があることで平和を願う心も育って欲しいと思います。

八戸学院第二しののめ幼稚園
小さい春　み～つけた♪

新年度がスタートして間もない幼稚園の園庭で、子どもたちは嬉しそうに走り回り、ブランコや鬼ごっこなど、それぞれに遊びを楽しんでいました。各々の遊びを楽しむ中で図鑑を手に取り、何かを調べている姿もありました。

ただの草地に見える地面も、よくよく見ると、様々な草花が芽吹き始めています。図鑑を見ては「この花の名前はなんだろう？」と探していました。咲いていたのはイヌナズナやつくし、オオイヌノフグリ。読めるようになったばかりの平仮名を一生懸命に読み、難しい名前を覚える事ができた子どもたちは、得意気に教えてくれました。

晴れた日の園庭には元気に遊ぶ子どもたちの声とともに、自然に興味津々の子どもたちの季節の発見がありました。

八戸学院大学短期大学部50周年記念講演
『昔の知恵に生き方を学ぶ』

学位記授与式を2日後に控えた3月15日、客員教授の三村三千代先生を講師にお迎えし、50周年記念講演会が開催されました。周知の通り、三村先生は古典文学がご専門で、古典を「楽しく、分かりやすく」伝える活動を展開されています。今回は徒然草を題材にとり、「昔の知恵に生き方を学ぶ」というテーマでご講演いただきましたが、まさに学生・教職員双方にとって楽しく分かりやすく、そして心に響くお話でした。

8つの知恵をご紹介くださいましたが、個人的に最も響いたのは、「上手の中に交じりて学べ」です。上手くなってから人前に出ようなどと思っていてはいつまでも上達しない、笑われ、恥をかいても初めから上手な人に交じるのが上達のコツだということでした。後で伺うと、やはり年配の人はこの話を好むそうです。何歳になっても何かを始めることはできますが、年を重ねると、ついそうした姿勢を忘れがちだからでしょう。

また、最後に学生が「少しの事にも、先達はあらまほしきことなり」に関して、実習中に職員に質問するかどうか悩んだ経験を述べ、アドバイスを求めていたのが、実習生としての素直な心情を表していて印象的でした。

これから社会に旅立つ若者に向けて、素敵な餞となったと思います。

（学長　杉山　幸子）

同窓生の広場

《大学時代について》

1988年（昭和63年）4月、八戸大学（現八戸学院大学）へ進学しました。大学に入学してすぐに新入生オリエンテーション合宿があったことを覚えています。全国から集まった同級生たちとこの合宿で友人関係を築けたことが非常に大きかったと記憶しています。部活動は友人の誘いで全くの素人ながら陸上競技部へ入部し、そこでも多くの先輩・後輩と和気藹々過ごした記憶が、今でも思い出されます。友人とは授業や部活動だけではなく、夜遅くまで語り明かすなどとにかく充実した学生生活を過ごすことができました。

青森県立百石高校学校
教頭
阿部　靖彦 氏

八戸大学
（現八戸学院大学）商学部
平成4年3月卒

《教員という仕事について》

大学3年の時、友人に誘われ教職課程の授業を選択しました。将来の事など特に考えもせず、「大学に入ったのだから教員免許を取っておこう」くらいの感じだったことを覚えています。そして、卒業と同時に教員免許を取得しました。大学卒業後、民間企業に就職したものの、高校時代の恩師から3か月の臨時講師の依頼を受け、そこから私の教員生活がスタートしました。臨時講師を経て教員採用試験に合格し、教諭として普通高校、商業高校と勤務させていただきました。他県で行われる会議に出席したとき、八戸大学（現八戸学院大学）の後輩たちから声をかけていただくことも数多くあり、嬉しく思うと同時に卒業生で教員に就いている方が多いことに驚きを感じました。

現在は教頭として、先生方や保護者の皆様、生徒諸君など多くの方々に支えられながら頑張っております。本当に全ての方々に感謝、感謝です。

《後輩へのメッセージ》

大学では、日本全国から学生が集まってきます。もちろん、学業も大切ではありますが、多くの友人を作っていただきたい。大学卒業後、日本各地や世界で活躍する同級生はもちろん、先輩や後輩たちが思いもよらないところで力になってくれることがあります。そして、若いときにしかできないチャレンジを思う存分してください。きっと、多くの方が応援してくれることと思います。そして、大学時代に多くの友人や仲間を作り、八戸学院大学に誇りと自信を持ち、全ての人に感謝の気持ちを持って、最高の学生生活を謳歌してください。皆さんの活躍をお祈りいたします。

令和4年度
八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部

新入生講話（上）

学校法人光星学院
理事長・学院長　法官 新一

新入生講話（4／14・15）の内容を掲載。

今日は、皆さんの通う大学について話したいと思います。そして今回の話が、本学についてより理解を深める時間になれば嬉しく思います。

【八戸学院のキャンパス】

最初に、八戸学院つまり学校法人光星学院の始まりについて紹介します。本学院の始まりは、湊高台キャンパスにある光星学院高等学校（現八戸学院光星高等学校）でした。カトリック教系の白菊学園（現八戸聖ウルスラ学院）を母体に、八戸市初の男子私立高校として昭和31年に誕生しました。最初は八戸市庁の傍にあった、旧八戸市立商業高等学校の校舎を借りて授業が始まりました。その後、湊高台地区に校舎が建設されました。新設当時、校舎の周辺はすべて畑で、強風が吹くと土埃が舞い、あたり一面が霞んでしまうほどでした。

光星学院高等学校は、カトリック教の考えを建学の精神にしていましたので、初代の校長先生はカナダ人の神父様でアチール・クルノイエ先生でした。2代目の校長先生もレアール・ブレーンという神父様で、カトリシズムは学校の根本になっていました。その後地域の要望に応える形で幼稚園や短大や専門学校が出来、現在は大学、短大、高校、幼稚園を有する学院に成長しました。平成25年に学校法人光星学院は八戸学院を各学校の冠として統一しました。初代理事長の中村由太郎先生には、常に教育環境の充実を考え、幼稚園から大学院までという『立体的総合学園構想』の夢をもっておりました。その思いは私たちに受け継がれて、今もその夢の実現に向かって進められています。

【創設者　中村由太郎先生】

創設者の中村由太郎先生は、明治29年5月6日に漁業の町である白銀町に生まれ、30代から運送業を営む地域実業家として活躍しました。戦中、戦後の混乱した時代には白菊学園（現八戸聖ウルスラ学院）の経営にも関わりました。戦後、学歴社会の到来と若人の豊かな人生には、教育が重要性だと思い、教育の機会が少なかった現状を鑑み60歳にして学校法人光星学院を創設しました。人材育成と、郷土文化の発展という先見の明をもって、運送業で蓄財した全財産をつぎ込んで学校法人光星学院を創設しました。今では法人全体から、約6万人に届こうとする卒業生を送り出しました。

中村由太郎先生は、明治気質を感じさせる偉丈夫で優しいお人柄でした。地元の神楽が大好きで、郷土愛が非常に強く、厳しくも謙虚な人というイメージがあります。また、普段の生徒たちの活動を見ることが好きで、野球部の練習を見学した時、傘を杖代わりにじっと眺めている姿は印象的でした。部活動が盛んになってからは、いろんな大会で活躍した選手たちを自宅に招き決まって「かつ丼」をご馳走してくれました。これは部活動生の自慢でした。ただ生前中に甲子園出場は叶いませんでしたが、第2代目理事長の中村キヤ先生がその夢を果たしてくれました。教え子達が、甲子園のアルプススタンドで由太郎先生の遺影を持って応援してくれたのは、何よりの供養になったと思っています。

【建学の精神と教育理念】

入学式で、「神を敬し、人を愛する」という本学院の建学の精神について紹介しましたが、今日は改めて本学院の建学の精神と教育の理念について話したいと思います。

「神を敬する」、皆さんはどう思いますか。目に見えない偉大な存在をどう認めたらいいのでしょう。そうした偉大な存在に畏敬の念を持つことは難しいことのようですが、一つの考え方として偉大な神は、自分の心の中に居るという考え方もあるかもしれません。神のような自分を考えるとき、心の在り方が問われることになります。

「人を愛する」とは、どういうことでしょう。私は自身が身につけた学びをもって社会に還元する。世の中のために役立つことだと思っています。愛とか奉仕の精神は、こうした考え方によると考えられます。

キリスト教では、どんな人も大切にすると教えています。このことをアガペーと言い、博愛と言います。この人は好き、この人は嫌いという愛は、個人愛のことをいい、全ての人を大事にすることをアガペーと言い、このことを神の愛と考えればいいのではないか。私達の心の中には、いろんな心が潜み良くても悪くてもその思いで行動します。ですから人間の根本にある心を磨く必要があると思います。昔、宗教の時間で悪いことを思っただけでも、罰に値すると習った記憶があります。

昭和34年2月25日、学校法人としての認可を受けて白菊学園（現八戸聖ウルスラ学院）から別れ学校法人光星学院がスタートしました。その時、すでに英語の先生として光星学院高等学校に赴任していたベルギー神父さんが、当時の光星新聞に「私達は親しい人に対して抱く愛情を豊かに養い、それを隣人への愛にまで掲げるように努力することが大切である」と原稿を寄せています。さらに「光星学院では、このことを教えなさい。自分が好きな人に優しくすることを、全てに与えようとすることが神の愛である」と言っています。すでに建学の精神が明確に掲載されています。

学問して、勉強して、知識や技能を身につけると同時に、心を養うということが私たちの学院の考え方であり、「神を敬し、人を愛する」とは、自身の心を磨き、学んだことをもって社会に貢献し人のために役立つことだと思っています。私の恩師小原国芳先生は「神なき知育は、知恵ある悪魔をつくる」と言いました。知識だけの習得ではいけない、自分の心内をしっかりやらないといけない。どんなに立派な頭脳を持っていても、悪いことに使う人間になってはいけないと教えました。皆さん、本学院はカトリシズムをもとに、人間育成を指し、「地の塩、世の光」となる人材育成を目指しています。

人間は誰でも楽をしたいし、いい思いもしたいのが普通の人間です。人間のこうした生き方の中で、私は宗教の傍にいることは大事だと思っています。キリスト教だけではなく、お釈迦様、孟子のような思想家について学ぶことは、人間の心の修養や生き方について学ぶことになると思っています。今日はそれについて簡単に紹介します。

お釈迦様は「慈悲」と言いました。人を思う、人を大切にすることを言っています。私は天台宗の「己を忘れて、他を利するには慈悲の極みなり。」という教えは、人のために役立つことを言っているし、キリスト教にも通じると思います。また孟子は「惻隠の心」と言いました。孟子は、人間は誰しも人の不幸を黙っていられない性質があると言いました。困っていれば助けたいという気持ちが湧いてくる。だから人間は生まれた時から、良い心を持っているという考えで、性善説といいます。ついでに、中国の他の思想に性悪説や性白説があります。いつの時代どこの国においても、人間の生き方の奥底に心の問題があります。荀子の性悪説は、人間は生まれた時から教えられなくても人の物を欲しがるし、羨むし、妬むことがある。生まれた時からそうした悪い心を持っているという考え方です。告子の性白紙説は、生まれた時はどちらでもない。環境や生活の中で善や悪となるという考えです。所説はこうした人間の性から、学ぶこと、修養の大切さを説いている。仏教では、死後の世界として極楽浄土や地獄の世界の存在をいい、生前の生活行動の在り方を問いています。キリスト教も仏教も神道もイスラムも教もその根本においては、「こころ」という点で、みな通ずるものはあると思う。

瀬戸内寂聴さんという小説家で尼さんだった人がいましたが、人間としての生き様の奥底まで見続けてきた人だったと思っています。瀬戸内寂聴さんが仏教に帰依し、仏と共に歩んできた姿は一つの生き方として深く印象に残っている。彼女は、先ばかり考えないで一日一日を自分のこころと向き合い、精一杯生きることを説いています。

八戸学院光星高等学校
守護の騎士

光星高校の正面エントランス中央に一体の石膏像があります。作品名は「守護の騎士」で昭和48年に寄贈されました。カトリシズムに則る騎士に、いつまでも守護してもらいたいという思いが込められており、寄贈されてから49年間光星高校を守護しています。

八戸学院光星高等学校

HACHINOHE GAKUIN | CAMPUS八戸学院 vol.62 | 【発行日】令和4年6月10日【発行】学校法人光星学院 〒031-8544青森県八戸市美保野13-98 TEL.0178-30-1411(代表) FAX.0178-30-1422